



白球を通し、笑顔の交流

スリランカ野球少年、別府市で



①白球を通して仲良くなったスリランカと別府市の野球少年②別府市軟式野球連盟が集めた中古の野球道具の寄贈を受けるスリランカの少年野球チーム＝別府市民球場

贈られた道具にお礼も

【別府】スリランカの少年野球チームの選手たちが6日、別府市を訪れて県内の野球少年と交流した。同国出身で市軟式野球連盟審判員のスジワ・ウィジャヤナーヤカさん(41)＝市内石垣東、会社員・顔写真Ⅱが架け橋となった。子どもたちは白球を通して笑顔を交わし、上達への意気込みを新たににした。



ウィジャヤナーヤカさんは立命館アジア太平洋大の卒業生。母国に野球を普及



させるため16年前から、日本で集めた中古の野球用品を贈り続けている。スリランカの選手たちは道具などへのお礼の意を込めて来日。スメダカレッジ小学部の野球チームに所属する8歳から12歳の15人と引率の監督ら6人が別府市民球場に足を運んだ。

球場では日本プロ野球選手会主催の「2025キャッチボールクラシック大分大会」にエントリー。大分、別府両市の学童8チーム170人が参加し、キャッチボールの回数を競うゲームと一緒に楽しんだ。野球教室も開かれ、守備練習を体験した。

別府市軟式野球連盟(後藤一彦会長)はこの日に合わせて、県内外のチームに協力を求めて不要になったバット約50本や30個以上のヘルメットなどを集めた。贈呈を受けたスリランカのチームは帰国後、他チームと分ける。

副主将のユラン・ランミカ選手(12)は「とてもありがたい。もっと野球が上手になりたい」とうれしそう。アショク・ピタナゲ主将(12)は「日本の同世代の選手と触れ合い刺激になった。何事も基本が大事だと思った。互いに技術を磨き、いつか国際試合で対戦できればうれしい」と話した。一行は7日、市役所を訪れ長野恭紘市長にあいさつをした。

(中野暁男)



〔問①〕 別府市を訪れて県内の野球少年と交流したのは、どこの国の少年野球チームの選手ですか。

〔問②〕 スジーフ・ウィジャヤナーヤさんがスリランカに野球を普及（ふきゅう）させるため、16年前からしている活動はなんでしょう。

〔問③〕 別府市軟式野球連盟がこの日に合わせて、県内外のチームに協力を求めて不要になったバット約【 】本や【 】個以上のヘルメットを集めました。
【 】に当てはまるバットとヘルメットの数を書きましょう。

バット 約 【 】 本
ヘルメット約 【 】 個以上

〔問④〕 スリランカという国を調べてわかったことを書きましょう。